

平成29年度 学校評価計画 総括評価表

徳島県立穴吹高等学校

○評価規準 A:十分に達成できた / B:概ね達成できた / C:十分には達成できなかった / D:全く達成できなかった

| 重点目標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 学校関係者の意見 | 次年度への課題・改善策 |
|---|--|--|--|--|
| | 評価指標と活動計画 | 評価 | | |
| 1 主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるよう授業の工夫をする。 | 評価指標 | 評価指標による達成度 | 総合評価 (評定) C (所見) 活動計画に関しては、学校行事等を考慮して11月の公開授業週間を2週間に拡大した。その他は計画通り実施できた。 評価指標については、授業への評価については概ね達成することができたが、1・2学年の授業への姿勢に若干の低下が見られた。また、教職員の授業見学率も低下した。 興味をもたせる授業を実践することが、生徒の授業への積極性につながる。さらに授業研究に取り組んでいく必要がある。 | ○ 他教員の授業見学を定期的に行っていることは有意義だ。回数も多く分けるだけでなく、教師が「よく分かる授業」をすることに繋がる授業見学になるようにしてほしい。 ○ 中高連携の意味から、地元中学校の先生に見てもらったり、本校の教員が地元中学校の授業を見学に行ったりしてもいいのではないかと。 ○ 各教科で教科会を定期的に行い、指導法についての意見交換の機会を増やす。 ○ 返却された参観シートや生徒への授業アンケートの結果を授業改善につなげる。 |
| | 1 他教員の授業を1・2学期、各2名以上の授業を見学する。 教員(2名以上)の授業見学率90%以上を目指す。 | 1 ※()内は昨年度 教員(2名以上)の授業見学率 〔1学期〕 76.1% (95.7%) 〔2学期〕 80.9% (77.3%) 年間全体 78.5% (86.1%) | | |
| | 2① 生徒への授業アンケートで「授業にまじめに、また積極的に取り組んでいますか」の質問に対し「大変当てはまる」「当てはまる」と回答する割合が全学年70%以上を目指す。 | 2① 〔1学年〕 70.7% (73.3%) 〔2学年〕 68.7% (81.0%) 〔3学年〕 88.1% (77.5%) 生徒全体 75.5% (77.0%) | | |
| | ② 教員への授業アンケートで「生徒を中心とした授業の展開ができたか」「質問に対し「そう思う」「だいたいそう思う」と回答する割合が75%以上を目指す。 | ② 「そう思う」 24.0% (28.0%) 「だいたいそう思う」 64.0% (56.0%) 教職員全体 88.0% (82.0%) | | |
| 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | | |
| 1 1・2学期に各1週間すべての授業を公開し、他の教員の授業を参観し、点検することにより、自らの授業力の向上やスキルアップを図る。また、参観される側も、参観シートで指摘を受けることにより授業実践力の向上を図る。 | 1 6月6日～12日の1週間と11月6日～17日の2週間を公開授業週間とし、すべての授業を公開した。2名以上の教員の授業見学を目標とし、見学後には参観シートへ記入した。参観シートには「参考になった点」や「この授業で注意・改善した方がいい点」を書く欄を設け、参観する側もされる側も授業実践力を向上できるようにした。 | | | |
| 2 2学期末に生徒・教員へ授業についてのアンケートをとる。 | 2 12月中旬に生徒と教員へ授業アンケートを実施した。 | | | |
| 2 自らの将来を具体的に思い描き、主体的に学習することを通して、基礎学力の伸長と進路実現を図る。 | 評価指標 | 評価指標による達成度 | 総合評価 (評定) B (所見) 活動計画の実施状況および評価指標の達成度については、概ね計画通りに実施できた。特に、2・3年生の漢字テストでは、努力が成果に結びついた。 今後、より主体的な進路決定に臨めるよう、体験的な学びの場を設定したり、情報量を増やしたりすることで、広い視野を持ちつつ、能動的なキャリア学習を重ねさせたい。 | ○ 漢字テストや英語テストに加えて、国語・数学の学び直しの実施と認定テストにより、成果が上がっていることは素晴らしい。 ○ 漢字テストと英語テストについて、優秀者の表彰だけでなく、成績不良者に対してきめ細やかな事後指導を継続していただきたい。 ○ 進学・就職を問わず、今後自らが学ぶ姿勢が必要であることを機会あることに話し、基礎学力の定着を促す。 ○ 引き続き、国語・数学の授業およびホームルーム活動で学び直し教材やテスト対策の事前指導を実施し、基礎学力の定着を目指す。 ○ 家庭学習調査を定期考査ごとに実施し、学習状況を確認するとともに家庭学習の定着につなげる。 |
| | 1 基礎学力養成のため校内で漢字テストおよび英語テストを実施し、年間平均85点以上の優秀者の割合を漢字テストでは各学年20%以上、英語テストでは各学年10%以上を目指す。 | 1 年間平均85点以上の優秀者の割合 漢字テスト 〔1学年〕 25.4% 〔2学年〕 42.9% 〔3学年〕 45.2% 英語テスト 〔1学年〕 23.8% 〔2学年〕 30.0% 〔3学年〕 25.8% | | |
| | 2 1年生で国語・数学の基礎教科に関して学び直しを行い、認定テストの最上級の合格率が90%以上とする。 | 2 1年生認定テスト最上級合格率 国語 96.5% 数学 89.5% | | |
| | 3 学力の定着を図るため家庭学習を促し、特に定期考査期間中、各学年において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。 | 3 一人あたりの1日平均学習時間 〔1学年〕 2.4時間 〔2学年〕 1.9時間 〔3学年〕 2.0時間 | | |
| 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | | |
| 1 実施日に向けて国語科・英語科を中心に事前対策を行い、各学年・クラスでも学習を奨励し、校内表彰に加えて学年表彰を設けることで漢字および英語の習得を促す。 | 1 国語科・英語科と担任が協力して事前指導を実施した。また事後指導として、課題プリント学習を行った。 | | | |
| 2 授業および課外学習での学習時間を確保するとともに、定期考査の範囲に盛り込むことにより学習意欲の高揚と持続を図る。 | 2 授業および課外学習で学習時間を確保し、定期考査の問題に入れることで、繰り返し学ぶことができた。 | | | |
| 3 考査期間を含む1週間の家庭学習調査を実施し、生活スタイルの見直しや適切な学習内容について担任が助言する。 | 3 家庭学習時間を記入させることで、生徒の学習状況を担任が把握できた。また面談の際に学習時間記入用紙をもとに話し、勉強不足の事実を保護者にも伝えられた。 | | | |
| 3-1 基本的な生活習慣の確立を図るために、遅刻指導、頭髪・服装指導に重点を置く。また学校や社会のルールを守るとともに正しく判断し行動できる生徒を育成する。 | 評価指標 | 評価指標による達成度 | 総合評価 (評定) B (所見) 頭髪再指導の1か月平均の人数は3.4人と、目標を達成できた。昨年度同様、長期休暇の前後の再指導は多くなる傾向がある。 遅刻者数は設定目標を達成できたが、昨年度より累計で75名増加、1日平均でも0.5名増加した。 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年度当初の計画通りいじめ等の未然防止のための活動を実施することができた。また、生徒に対する「学校生活アンケート」からも特に問題となる内容もなかった。気になる記述をした生徒に関しては個別に面談を実施した。 | ○ 教師側からの指導と共に、生徒会やホームルームなどで、生徒自らが自主的に取り組む目標を設定し、校内や教室に掲示するなど、生徒側からの呼びかけ運動・啓発が盛り上がるような仕掛けをしてはどうか。 ○ 遅刻者数は、設定目標を達成できたが、昨年度よりも増加した。次年度はより減少するよう、継続的な指導を実施する。特に、5月・6月・11月と学期半ばの遅刻者数が多いため、この時期の遅刻者を減少させるよう指導する。 ○ 特別指導を受ける生徒の数は昨年度より増加した。引き続き、巡視による問題行動の未然防止に努める。 ○ いじめ等の未然防止の活動は今後も計画的・継続的に実施する。 |
| | 1① 毎月行う頭髪・服装指導の頭髪再指導者数が1か月平均5名以下を目指す。 | 1① 頭髪の再指導者数 (4月～1月) 〔1学年〕 8名 〔2学年〕 12名 〔3学年〕 11名 合計31名 1か月平均 3.4名 (1.3%) | | |
| | ② 1年間を通した1日平均の遅刻者数が5名以下を目指す。 | ② 全校生徒に対する遅刻者数の割合 (4月～1月) 1日平均 2.8名 (1.3%) | | |
| ③ 校内巡視・校外巡視を行うことにより、問題行動の未然防止を図る。 | ③ 校内巡視(4月～1月) 全職員による巡視 161日 生徒課による巡視 校内 66日 校外 66日 (校外巡視は午前中授業の日中心に実施) | | | |
| 3-2 「学校いじめ防止基本方針」に沿って、いじめ等の防止に関する基本的な考え方を統一し、未然防止に努める。 | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | |
| | 1① 毎月の頭髪・服装指導以外にも、随時気になる生徒を指導する。 | 1① 4月～1月までに毎月1回、合計9回実施した。学年別に全教員で取り組んだ。違反生徒は、改善が見られるまで再指導した。 | | |
| | ② 計画的、継続的に校内巡視・校外巡視を行うとともに、気になる場合には随時巡視を強化する。 | ② 校内巡視は、基本的に全教職員が毎日交代で実施した。校舎内外の死角になりそうな場所を中心に巡視した。校外巡視は、午前中で放課となる日を中心に、JR穴吹駅周辺、量販店周辺などで実施した。 | | |
| 2 いじめ等の防止のための年間計画に沿った活動を実施する。 | 2 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年間計画に沿った活動を実施した。 | | | |

| | | | | | |
|--|---|---|---|--|--|
| <p>4-1 清掃活動を推進する。</p> <p>4-2 月1回アースデーを設け、ゴミの分別やポイ捨ての禁止、節電・節水呼びかけの。</p> | <p>評価指標</p> <p>1 びかびかコンテストを年2回実施する。</p> <p>2① 美化委員がポイ捨ての禁止や節電・節水について、アースデーの朝SHRで呼びかける。</p> <p>② 電気・水道の使用量がそれぞれ170,000kW(4月～12月)、3,000m³を超えない。</p> <p>3① 防災クラブの活動を年間10回以上活動する。そのうち地域の方とつながる活動を2回以上実施する。</p> <p>② 活動後は毎回、内容と感想を記録する。</p> <p>活動計画</p> <p>1 1・2学期に1回ずつ、びかびか週間を設け、各部門ごとに最も清掃ができていたクラス又は個人を表彰する。</p> <p>2① 家庭や地域にも呼びかけ、美化委員とJRC部員が中心となりペットボトルキャップを回収する。</p> <p>② 学期ごとの電気・水道の使用状況をISOコーナーに掲示する。</p> <p>3 活動を詳細に記録することで生徒の防災意識及び防災時に行動できる力の向上を図る。</p> | <p>評価指標による達成度</p> <p>1 計画通り実施した。 〔1学期〕 6月6日～6月12日 〔2学期〕 11月6日～11月10日</p> <p>2① 毎月のアースデーにおいて啓発活動を行った。更に美化委員が啓発に関するポスターを20枚作成し、校内各所に掲示することで、全校生徒の環境美化に対する意識の向上に貢献した。</p> <p>② 〈電気水道使用量〉 電気：4～12月の電気使用量 120,689kW 2,503kW減 昨年度より2.0%減 水道：4～11月の水道使用量 1,592m³ 162m³増 昨年度より11.9%増</p> <p>3① 計画通り実施できた。美馬市の防災イベントにスタッフとして参加し、穴吹町内の自主防災会では生徒が実演をした。</p> <p>② 活動を通して自分の意識や考え方が変わったという生徒が多く見られ、体験的・実習的な各活動を重点的に取り入れた効果があった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>1 清掃箇所を5部門に分け、教員や生徒会役員が審査を行い、各部門上位のクラスを表彰した。</p> <p>2① 計画通り実施できた。</p> <p>② 計画通り実施できた。</p> <p>3 計画通り実施できた。特に10月までの活動は華の丘祭で掲示物にまとめ、発表することができた。</p> | <p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>びかびかコンテストも定着し、多くの生徒はゴミの分別ができており、美化・エコ活動に対する意識の向上がうかがえる。 電気使用量は昨年度より減少した。水道使用量は、やや増加したが、どちらも目標を達成することができた。 防災クラブでは、今までの活動を引き継ぎ、地域の活動を少しずつ増やし積極的に取り組むことができた。</p> | <p>○ ひかひかコンテストはとても素晴らしい取り組みである。教室など活動場所の環境整備は教育を行うための基本である。</p> <p>○ アースデーの実施など、全校挙げて環境問題に取り組んでいることが素晴らしい。</p> <p>○ 水道使用量について、11月～12月分のみ他の月に比べて非常に多くなっていた。次回以降も続くようであれば漏水の可能性もあるため、点検を依頼する。</p> <p>○ 教室だけでなく、廊下や階段のゴミの処理と一層の意識の向上について美化委員を中心に呼びかけを行う。</p> <p>○ 校内で実践した防災に関する活動や内容を地域や家庭に還元できるような活動を計画する。</p> | <p>○ 節電・節水に関しては、教室移動の際の消灯や節水を意識できるよう今後も継続して電気・水道の使用量を生徒に知らせたり、ポスター掲示を行うなどして注意喚起を行う。</p> |
| <p>5-1 生徒会活動や学校行事を通して、自主的・実践的な態度を育てる。</p> <p>5-2 部活動のより一層の活性化を図る。</p> | <p>評価指標</p> <p>1① 学校行事への参加生徒率90%以上を目指す。</p> <p>② 生徒会役員があいさつ運動を毎週月・金曜日に実施する。</p> <p>2① 各部が校内外の場所を決定し、年間2回以上清掃活動を行う。</p> <p>② 部活動生集会を年間3回以上開催する。</p> <p>活動計画</p> <p>1① 生徒会や各クラスの生徒が自主的・主体的に企画・運営できるような適切な指導を行う。</p> <p>② 生徒会役員がリーダーとなって積極的にあいさつを行い、全校生徒が挨拶を交わせる習慣を身につけさせる。</p> <p>2① 部活動を中心に、校内外の清掃活動を行い、積極的に環境美化活動に取り組む。</p> <p>② 部活動生集会において、部での活動全てが学校の活性化につながることを認識させ、学校及び部活動の発展に取り組む。</p> | <p>評価指標による達成度</p> <p>1① 学校行事における参加生徒率は97%であった。</p> <p>② 毎週月・金曜日にあいさつ運動を実施できた。</p> <p>2① 各部清掃場所を決定し、年間2回以上清掃活動を行えた。</p> <p>② 集会を4月・5月・6月の計3回、実施できた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>1① 生徒会役員を中心に夏休み前から実施案を考えた計画した。球技大会や体育祭に関するアンケートを実施し、できるだけ生徒の希望に沿った内容に変更した。</p> <p>2① 生徒会役員によるあいさつ運動により、一層積極的にあいさつをする生徒の姿が見られた。</p> <p>2① 生徒会・部活動を中心に、日頃できない場所を清掃し、校内美化活動に貢献した。</p> <p>② 年間3回の部活動生集会では、部活動生の共通目標を掲げて、部活動生全員が学校の代表としての自覚を持ち、よりよい学校生活を送ることができリーダー的存在になるよう働きかけた。また、アンケートによると、部活動生集会が重要であると感じる生徒は97%であった。</p> | <p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>学校行事については、概ね前向きに参加できているというアンケート結果が出ている。昨年度より校内行事の内容や運営を精選した成果である。 部活動においては活動内容の充実や良い成績を残す部員が増加しているが、全体的に部員数が昨年に引き続き減少している。部活動に参加する意味や心身を成長させる機会であることを理解させる工夫が必要である。</p> | <p>○ 学校行事への参加率が高いことは素晴らしい。学校が生徒にとって居心地の良い場所になっている証とも言える。</p> <p>○ 生徒会活動や部活動が活発に行われていることが心強い。各部による校内外の清掃活動を今後も継続してもらいたい。</p> <p>○ 生徒数が減少するなかで、学校行事や部活動をどのように改善していけば良いか精選する必要がある。</p> <p>○ 部活動生集会をさらに活性化するために顧問や生徒の声も集会に取り入れて、各部の活動の連携を促す。</p> | <p>○ 今年度と同じく、各部の清掃活動について、重点的に行う場所や時期を指定する。また、部活動生による校外清掃の機会を増やす。</p> <p>○ 生徒数が減少するなかで、学校行事や部活動をどのように改善していけば良いか精選する必要がある。</p> <p>○ 部活動生集会をさらに活性化するために顧問や生徒の声も集会に取り入れて、各部の活動の連携を促す。</p> |
| <p>6 生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図り、人権問題の解決に向けて取り組む力を育てる。</p> | <p>評価指標</p> <p>1 12月に実施する人権問題意識調査において、校内での人権学習にクラスが「とても活発に取り組めた」「やや活発に取り組めた」と回答する割合が70%以上を目指す。</p> <p>2 12月の調査において、人権問題解消に向けての意欲を持つと回答する割合が70%以上を目指す。</p> <p>3 12月の調査において、校内での人権学習に「まじめに取り組んだ」「ややまじめに取り組んだ」と回答する割合が70%以上を目指す。</p> <p>4 年3回発行する人権啓発新聞「Together」に保護者向けの啓発記事を掲載する。</p> <p>活動計画</p> <p>1 月1回「人権の日」を設け、人権委員会を中心として、身近な人権問題を中心とした人権問題学習を実施する。</p> <p>2 年2回(4月・12月)、人権問題意識調査を実施し、生徒の意識の変化を分析する。</p> <p>3 ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせた内容を実施する。</p> <p>4 人権啓発新聞「Together」を家庭で読んでもらえるように、人権委員やヒューマンライツ部を中心とした広報活動を行う。</p> | <p>評価指標による達成度</p> <p>1 「とても積極的に取り組めた」「まずまず積極的に取り組めた」と回答した割合は88.9%であった。</p> <p>2 人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲を持つと回答した割合は66.3%であった。</p> <p>3 「まじめに取り組んだ」「ややまじめに取り組んだ」と回答した割合は93.4%であった。</p> <p>4 「Together」に人権ミニコーナーを設け、同問題解決に向けて作成した「六高人権かるた」と、今年度より「人権の日」で実施したソーシャルスキルトレーニングの保護者向けの紹介記事を掲載した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>1 『HANANOSUKE』という冊子を作成し、身近な対人関係や集団行動を上手に営むための技能であるソーシャルスキルトレーニングを行い、計画通り実施できた。その際に人権委員会が補助・運営に関わった。</p> <p>2 計画通り実施できた。</p> <p>3 人権ホームルーム活動は各学年ともに年間5回、計画通り実施できた。5月18日には人権教育講演会を実施し、障がい者問題について、久保修さんに自らの体験なども踏まえて話していただき、理解を深めた。</p> <p>4 人権ホームルーム活動などの内容や感想を掲載し、家庭に送付した。華の丘祭において人権啓発展を実施し、ヒューマンライツ部の活動報告や「六高人権かるた」を展示した。</p> | <p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>生徒の取組に関する評価指標は目標にほぼ達した。人権委員の生徒は、校内人権の日の補助・運営や校内行事の運営に前向きに取り組むことができた。 人権教育講演会・人権啓発展への保護者の参加数が少なく、また保護者と人権問題について話し合う生徒が少ない状態が続いている。</p> | <p>○ 人権学習に活発に取り組む生徒の割合が高いことは良い。</p> <p>○ 「Together」の各家庭への配布など、保護者への啓発にも努力している。なかなか成果が見えにくいのが、今後も継続してもらいたい。</p> <p>○ 生徒の取組に関する評価指標は目標にほぼ達した。人権委員の生徒は、校内人権の日の補助・運営や校内行事の運営に前向きに取り組むことができた。 人権教育講演会・人権啓発展への保護者の参加数が少なく、また保護者と人権問題について話し合う生徒が少ない状態が続いている。</p> | <p>○ 人権問題解消に向けて、人権問題を自分の問題として、差別を克服するために自ら考え行動できる生徒を育てる取組を続けていく必要がある。 そのために人権ホームルーム活動や「人権の日」において、より身近で具体的な事例を取り上げるとともに、生徒が主体的に取り組むことのできる支援を行う。</p> <p>○ 保護者と連携して生徒の人権教育を実施するために、PTA総会などの機会をとらえ保護者への情報提供・協力依頼を積極的に行うとともに、生徒を通じた保護者への啓発を行う。</p> <p>○ 「Together」の紙面に人権問題についての生徒の意見や家庭で話題となる記事の掲載を継続し、保護者の人権意識の高揚に努める。</p> |